

おたがいさま

ODAGAISAMA

121号
令和7年
12月1日発行

つくって、食べて、
笑顔になる

“まんま”がつなぐ、みんなの居場所

あづばりまんま (温海地域 小国)

温海地域小国で月に一度開かれる「あづばりまんま」は、地域の方が集まってごはんを食べながら、つながりを深める交流の場です。令和5年2月より、女性有志6人が運営スタッフとなり始まりました。

みんなで料理を作って食べて、おしゃべりを楽しむ、そんな笑顔あふれるひとときです。夏休みには地元の子どもたちも加わり、世代をこえたふれあいが広がる場にもなっています。



小国山村振興センターを会場に、この日は21名が参加。みんなでおにぎりを作りました。



地元の野菜や山菜も取り入れて、季節に合わせた料理を作ります。



みんなで作ったおにぎりや手作り料理。おいしいといつも好評です。

運営スタッフの皆さんと参加者の方にお話を伺いました

「あづばりまんま」をはじめたきっかけを教えてください

運営スタッフの皆さん … 地域の方同士で顔を合わせる機会が少なく、楽しみがないといった声をきっかけに、自分たちでできることをやろうと、「あづばりまんま」を始めました。ただ会食に来てもらうだけではなく、参加者みんなで料理を作る時間を大切にしています。昔ながらの料理を一緒に作ると参加者さんの方が上手で、私たちも勉強になります。

「あづばりまんま」に参加してどうですか

参加者さん … 普段はひとりや夫婦で食べているから、みんなで顔を合わせて食べるのが楽しいです。一緒に作った料理は一段とおいしく感じますし、ここに来ると元気がもらえて毎日ががんばれます。買い物へおでかけや季節のイベントもあり、毎回参加を楽しみにしています。



きくち まさあき
菊地 将晃 さん
(ダンサー名:KICK)

北海道出身。17歳からストリートダンスを始める。大学進学を機に山形県へ移住。2014年「Kickin' Dance Fam(キッキングダンスファミ)」を結成。2023年、東京2020パラリンピックの開閉会式に出演したダンサー等が所属する全国チーム「DIVERz(ダイバーズ)」に東北唯一のメンバーとして加入。2025年、大阪・関西万博 Rare Disease Day(希少・難治性疾患の日)ステージに出演。



このページでは、鶴岡市で「誰もがその人らしく暮らす地域づくりや活動を行っている人」を紹介します。

「自分以外の人のために何ができるかを考える」それが活動の原点

今回は、インクルーシブダンスファミリー『Kickin' Dance Fam』を率い、地域や学校、県内外のイベントで多彩に活動されている菊地将晃さんにお話を伺いました。

ダンスチームについて教えてください

大学卒業後に鶴岡市内の障害者福祉事業所に勤務しました。ここで出会った、ダウン症のメンバーと一緒にダンスを始めたのが平成二十二年のこと。これが現在まで続いています。次第にメンバーも増え、四年後に「ダンスでつながっている最高の家族」という意味を込め、インクルーシブダンスファミリー『Kickin' Dance Fam(キッキングダンスファミ)』というチームとして、障がいのある人もない人も一緒になって毎週一回の練習会と、イベントでのダンスパフォーマンスを続けています。

今の活動に繋がるきっかけや原点となる出来事はありますか？

もともと福祉分野を志していたわけではありません。大学時代、人の関わりを避けていた時期がありました。「自分には何か足りない」と感じて始めたのが、ボランティア活動です。「自分以外の人のために

何ができるのかを考える」ことが、結果として自分の生き方や社会を豊かにしていくのかもしれないと、おぼろげに感じたことが今の活動につながっているのだと思います。

障がいのある方と活動する中で気づきや感じていることはありますか？

色々な人と活動するうえで、根底にあるのは「自分の人生を幸せに生きる権利」への意識です。これは、障がいのある方に限らず、誰もが持っている権利です。ダンスチームのメンバーと一緒にダンスをしたり、食事に行ったりする中で感じたのは、障がいがあることで、自分の幸せのために何かを選択する機会が少なくなってしまう社会があるという現実です。例えば、ファミリーレストランに行くといった何気ないことも、自分たちだけでは難しい場合でも、一緒に行く仲間がいれば、簡単にクリアできたりもする。こうした経験は、福祉サービスの中だけでなく、日常の中にも広がっていくことが大切だと感じています。

これから目指したいことを教えてください

目標は、ダンスを通じて様々な人がつながる場をつくり、人の心を動かすきっかけを生み出すことです。さらに、関わった人たちが生きる喜びを感じる瞬間を多くつくりたいと思っています。

初めて障がいのあるメンバーとステージに立ったとき、音は外れ、決して上手とはいえませんでした。終演後に涙を流しながら「感動した。ありがとう」と伝えてくれるお客さんの姿に、ダンスが持つ力を強く感じました。私はそれまでダンスで誰かを感動させた経験などなかったのですが、彼らの力に圧倒されたのを覚えています。感動するということは、心が震えること。そして生きる力になるのだと思います。ダンスにはそんな力があると信じて仲間たちと活動を続けていきたいです。



これからの地域福祉活動を考える

— 一次期「地域支え合いプラン」策定の研修会を開催しました —



9月26日(金)、鶴岡市社協本部会議室を会場に「地域支え合いプラン策定の意義」をテーマとした研修会を開催しました。鶴岡市内21学区・地区社協より約40名が参加し、講話とグループワークを通じて、地域福祉活動のヒントを学びました。

「地域支え合いプラン」とは、鶴岡地域では各学区・地区社協等、藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海の各地域では地域福祉委員会が中心となり、地域の特性に合わせて、小地域における住民主体の福祉活動を進めていくための活動計画です。

○住民主体の支え合いが、今求められています

現在進めている「地域支え合いプラン」は令和七年度が計画期間の最終年度になります。次期プラン策定に向けて、今回の研修会では、プランづくりの意義や大切さについて、東北福祉大学総合福祉学部の大石剛史准教授より助言・指導をいただきました。

講話では、市民の皆さんや福祉関係者へのアンケートやヒアリングの結果をもとに、鶴岡市の抱える福祉課題について説明があり、それを踏まえ地域住民が主体となって取り組むことの大切さや、今なぜその力が求められているのかを学ぶことができました。

また、他県の事例を交え、地域支え合いプランを通じた地域づくりの工夫やヒントを分かりやすく紹介いただき、「地域福祉活動は、地域のみならず話し合い、無理なく、楽しく、みんながやるのが成功の秘訣」との助言もいただきました。

鶴岡市福祉ニーズに関するアンケート調査結果から

(令和6年度、市民2000人を対象に実施)

住民同士の支え合いを「必要だと思う」と答えた人は約7割にのぼりました。自分のできることとして、「日常での安否確認や声かけ」(48.4%)、「災害時避難の手助け」(39.8%)が挙げられました。

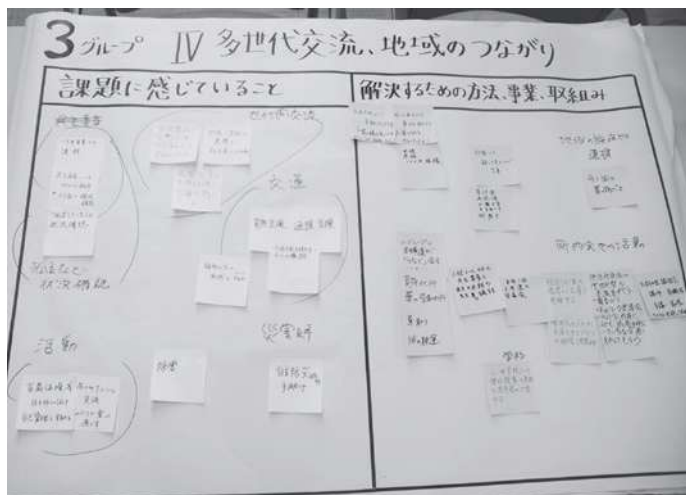
また、住民同士の支え合い、ボランティア活動のために必要なことは、「ともに活動する仲間や友人がいること」(47.6%)、「地域の人気が軽に集まれる場所を作ること」(30.7%)といった、人とのつながりや環境の工夫が求められていることが伺えました。

○グループワークで見た、地域の課題とこれから

後半は、参加者がグループに分かれ、四つのテーマごと「自分たちの地域での課題」と「解決のためにできそうな取組」について活発な意見交換を行い、話し合いの中で、参加者同士が地域の現状や課題を共有する貴重な機会となりました。

参加者からは、「他地区の取組やアイデアを取り入れたい」「地域の中でできることを具体的に考えるきっかけになった」といった感想も多く寄せられました。

今回の研修をきっかけに、今後も地域での話し合いを重ねながら、住民一人一人が関わり合える福祉のまちづくりを目指し、各学区・地区社協、藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海の各地域で「地域支え合いプラン」策定を進めていきます。



地域の課題とこれからの取組について、様々な意見がでました(グループワークから)

ひきこもりの悩み
話してみませんか

ひきこもり支援ステーション

あしたば

鶴岡市から委託を受け令和7年6月より月山福祉会が取り組んでいる
ひきこもり支援ステーション事業をご紹介します。

「ひきこもり支援ステーションあしたば」では、ひきこもり状態にある方やご家族を対象に、
次の事業を通じて、無理なく一歩を踏み出すお手伝いをしています。

相談支援

社会福祉士などの専門職が、ひきこもり状態にある方やご家族、関係者からのご相談をお受けします。電話やメールでのご相談も可能です。

家族会の開催

同じ悩みを持つご家族が交流し、悩みや経験を分かち合えるよう家族会を行っています。

居場所づくり

落ち着いて過ごせる居場所づくりを進めています。事務所の一部を改築しカフェスペースを設置予定です(12月末完成予定)。このスペースは、家族会などにも活用し、交流を通じて心の負担を軽くできるような場を目指しています。

ひきこもり支援 ネットワークづくり

支援に関わる民間団体や行政機関との情報交換会を実施し、地域の中で切れ目のない支援につながるネットワークの構築を進めています。

あしたばスタッフからのメッセージ

ひきこもり状態にある方のご家族から相談をいただくことは、支援の第一歩となります。ご家族が安心できる居場所を持つことで、その気持ちは自然と当事者にも伝わり、当事者の支援につながっていくと思います。

また、支援のゴールは当事者の「自律する心」を育てること。すぐに動き出すことを求めるのではなく、時間をかけて当事者の気持ちに寄り添う支援が大切だと考えています。そのために、支援者同士の勉強会を通じて理解を深め、よりよい支援につなげるためのスキルアップにも取り組んでいます。どうぞ、お気軽にご相談ください。

お問合せ先

ひきこもり支援ステーション あしたば (社会福祉法人 月山福祉会)
鶴岡市馬場町1-6 TEL&FAX 0235-33-8939
e-mail:ashitaba-agri@x2.gmob.jp

ご相談フォームも
ご利用ください



ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます
(令和7年9月1日から令和7年10月31日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・庄内なつメロ会第36回発表会 様 20,000円
- ・鶴岡建設㈱ 親善ゴルフ大会 様 96,600円

◎藤島福祉センターへ

- ・曹洞宗山形県第三宗務所第九教区 様 30,000円
- ・出羽商工会女性部藤島支部 様 食料品48点

★鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるまへ

- ・匿名 様 空気清浄機 1台

★デイサービスセンターふれあいへ

- ・竹腰 香 様 シルバー川柳開運かるた1箱
- ・芝田 俊次 様 車椅子1台、介護用品3点

★はちもりへ

- ・五十嵐 京子 様 傘福 2点

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・山田 陽子 様 介護用品
- ・渋谷 成花 様 ウェットティッシュ5個

★デイサービスセンターとようらへ

- ・匿名 様 100,000円

★くしびき西部保育園へ

- ・㈱ネット清川屋 様 お菓子140個(雪の月、山形の雪どけ)

★フードバンクへ

- ・井上 美奈 様 食料品5点
- ・匿名 様 100,000円、食料品78点
- ・つるおか森の時間 様 食料品7点

★市内の子ども食堂へ

- ・匿名 様 食料品17点

おだがいさま

第121号
令和7年12月1日発行
発行部数 47,300部



編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

本部事務局 鶴岡市山王町13番36号

TEL 0235-26-7815

FAX 0235-26-7837

ホームページ <https://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター

地域福祉課 TEL 26-9222

生活支援課 TEL 24-0053

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

櫛引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-2114



広報誌「おだがいさま」は、赤い羽根共同募金配分金と社協会費を財源とし、偶数月に全戸配布でお届けしています。